

芦別市における景気動向調査報告書

《令和5年第Ⅱ四半期》

芦別商工会議所経済地域振興委員会

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点 令和5年7月1日
- (2) 調査対象期間 令和5年4月から6月期実績及び令和5年7月から9月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象及び調査方法

- (1) 調査対象
『令和5年度特定商工業者名簿』に掲載されている事業者の中から、製造業20事業者、建設業20事業者、卸売業10事業者、小売業30事業者、サービス業20事業者の5業種100事業者を対象とした。
- (2) 調査方法
調査対象に対して調査票をFAXで送付し、FAXにより回答をいただいた。

3. 業種別回答状況（事業者数）

業種	事業者数	対象事業者数	回答事業者数	回答率
製造業	20事業者	20事業者	10事業者	50.0%
建設業	20事業者	20事業者	9事業者	45.0%
卸売業	10事業者	10事業者	4事業者	40.0%
小売業	30事業者	30事業者	15事業者	50.0%
サービス業	20事業者	20事業者	6事業者	30.0%
合計	100事業者	100事業者	44事業者	44.0%

※ 本調査報告書中の「D・I」値 とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概況 《全体の動き》

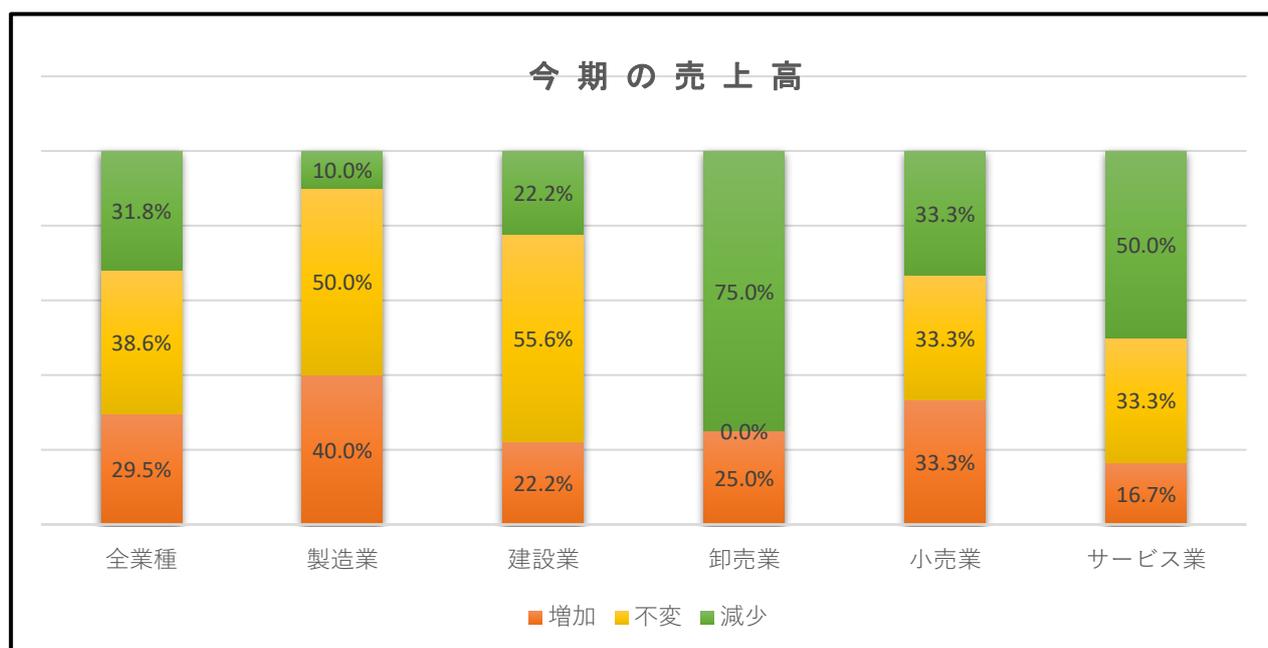
令和5年第Ⅱ四半期（4月～6月）の芦別市における売上高（製造業は生産高、建設業は工事完成高）は、全業種で見ると前年同期比で「増加した」と答えた事業者の割合が30.2%、「減少した」と答えた事業者の割合が32.6%で、「増加」から「減少」を差し引いたD・I値は△2.3となっております。来期（4月～6月）売上高の見通しを全業種で見ると、「増加する」と答えた事業者の割合が20.9%、「減少する」と答えた事業者の割合が32.6%で、D・I値は△11.6となりました。

また、経営課題としては、全業種において「人材・人材不足」、「経費の増加」、「顧客需要の停滞・変化への対応」、「事業設備の不足・老朽化」、「取引条件の悪化」といった回答が多く寄せられております。

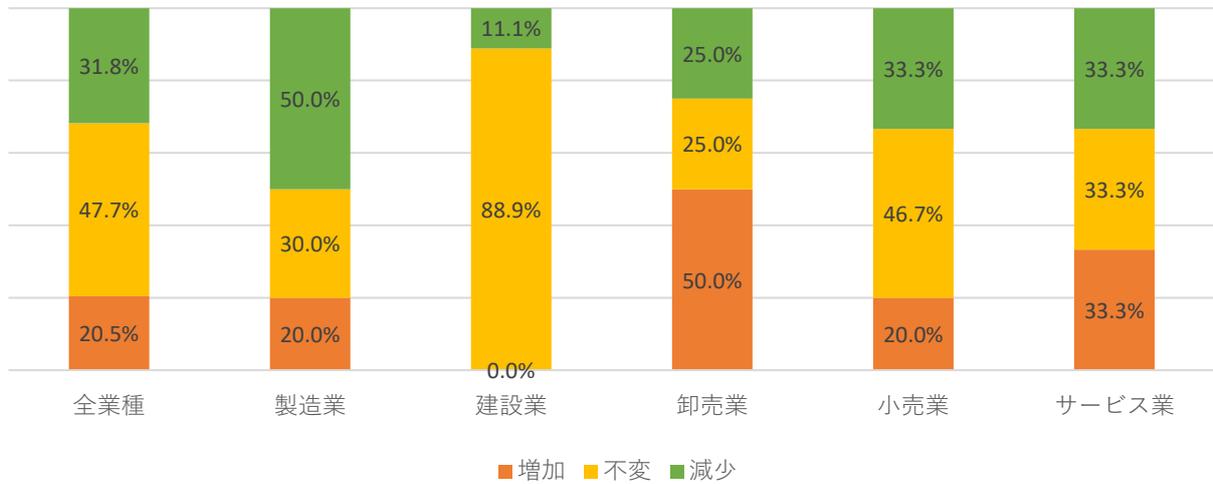
業種別D・I《売上高》

売上高 (%)	今期（令和5年4月～6月）の実績 （前年比）				令和5年7月～9月の見通し （今期比）			
	増加	不変	減少	D・I値	増加	不変	減少	D・I値
全業種	29.5	38.6	31.8	△2.3	20.5	47.7	31.8	△11.4
製造業	40.0	50.0	10.0	30.0	20.0	30.0	50.0	△30.0
建設業	22.2	55.6	22.2	0.0	0.0	88.9	11.1	△11.1
卸売業	25.0	0.0	75.0	△50.0	50.0	25.0	25.0	25.0
小売業	33.3	33.3	33.3	0.0	20.0	46.7	33.3	△13.3
サービス業	16.7	33.3	50.0	△33.3	33.3	33.3	33.3	0.0

※ 製造業は「生産高」、建設業は「工事完成高」を示す。



来期の売上見通し



業種別D I 《資金繰》

資金繰 (%)	今期 (令和5年4月～6月) の実績 (前年比)				令和5年7月～9月の見通し (今期比)			
	好転	不変	悪化	D I 値	好転	不変	悪化	D I 値
全業種	15.9	59.1	25.0	△ 9.1	9.1	61.4	29.5	△ 20.5
製造業	30.0	50.0	20.0	10.0	10.0	70.0	20.0	△ 10.0
建設業	11.1	88.9	0.0	11.1	11.1	55.6	33.3	△ 22.2
卸売業	0.0	25.0	75.0	△ 75.0	0.0	100.0	0.0	0.0
小売業	13.3	53.3	33.3	△ 20.0	6.7	53.3	40.0	△ 33.3
サービス業	16.7	66.7	16.7	0.0	16.7	50.0	33.3	△ 16.7

※ 業種別D I 《売上高》及び業種別D I 《資金繰》の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計しても100にならない場合がある。

《業種別の動き》

① 製造業

生産高

前年比で「増加した」と答えた事業者の割合は40.0%、「減少した」と答えた事業者の割合は10.0%で、D・I値は30.0となりました。来期の見通しでは、「増加する」と答えた事業者の割合が20.0%、「減少する」と答えた事業者の割合が50.0%、D・I値は△30.0となっており、今期については生産高の増加が見られたものの、来期は厳しい見方をしているようです。

資金繰

前年比で「好転した」と答えた事業者の割合は30.0%、「悪化した」と答えた事業者の割合は20.0%で、D・I値は10.0となりました。来期の見通しでは、「好転する」と答えた事業者の割合が10.0%、「悪化する」と答えた事業者の割合が20.0%、D・I値は△10.0となっており、資金繰りについても、来期については厳しい見方をしています。

② 建設業

工事完成高

前年比で「増加した」と答えた事業者の割合は22.2%、「減少した」と答えた事業者の割合は22.2%で、D・I値は0.0となりました。来期の見通しでは、「増加する」と答えた事業者の割合が0.0%、「減少する」と答えた事業者の割合が11.1%、D・I値は△11.1となっており、来期については厳しい状況を予測しています。

資金繰

前年比で「好転した」と答えた事業者の割合は11.1%、「悪化した」と答えた事業者の割合は0.0%で、D・I値は11.1となりました。来期の見通しでは、「好転する」と答えた事業者の割合が11.1%、「悪化する」と答えた事業者の割合が33.3%、D・I値は△22.2となっており、今期は好転した資金繰りも、来期については厳しくなると予測しています。

③ 卸売業

売上高

前年比で「増加した」と答えた事業者の割合は25.0%、「減少した」と答えた事業者の割合は75.0%で、D・I値は△50.0となりました。来期の見通しでは、「増加する」と答えた事業者の割合が50.0%、「減少する」と答えた事業者の割合が25.0%、D・I値は25.0となっており、来期については売上高が増加に転じると予測しています。

資金繰

前年比で「好転した」と答えた事業者の割合は0.0%、「悪化した」と答えた事業者の割合は75.0%で、D・I値は△75.0となりました。来期の見通しでは、「好転する」と答えた事業者の割合が0.0%、「悪化する」と答えた事業者の割合が0.0%、D・I値は0.0となっており、今期は厳しかった資金繰りについて、来期も続くと予測しています。

④ 小売業

売上高

前年比で「増加した」と答えた事業者の割合は33.3%、「減少した」と答えた事業者の割合は33.3%で、D・I値は0.0となりました。来期の見通しでは、「増加する」と答えた事業者の割合が20.0%、「減少する」と答えた事業者の割合が33.3%、D・I値は $\Delta 13.3$ となっており、来期については厳しい状況を予測しています。

資金繰

前年比で「好転した」と答えた事業者の割合は13.3%、「悪化した」と答えた事業者の割合は33.3%で、D・I値は $\Delta 20.0$ となりました。来期の見通しでは、「好転する」と答えた事業者の割合が6.7%、「悪化する」と答えた事業者の割合が40.0%、D・I値は $\Delta 33.3$ となっており、資金繰りについては厳しい状況が続くと予測しています。

⑤ サービス業

売上高

前年比で「増加した」と答えた事業者の割合は16.7%、「減少した」と答えた事業者の割合は50.0%で、D・I値は $\Delta 33.3$ となりました。来期の見通しでは、「増加する」と答えた事業者の割合が33.3%、「減少する」と答えた事業者の割合が33.3%、D・I値は0.0となっており、来期については減少が改善されると予測しています。

資金繰

前年比で「好転した」と答えた事業者の割合は16.7%、「悪化した」と答えた事業者の割合は16.7%で、D・I値は0.0となりました。来期の見通しでは、「好転する」と答えた事業者の割合が16.7%、「悪化する」と答えた事業者の割合が33.3%、D・I値は $\Delta 16.7$ となっており、資金繰りについては厳しい状況になると予測しています。

《業種別 経営上の問題点》

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
全 業 種	人材・人手不足	経費の増加	顧客需要停滞	設備老朽化等	取引条件悪化
製 造 業	経費の増加	顧客需要停滞 人材・人手不足	設備老朽化等	取引条件悪化 後継者不在	同業等と競合
建 設 業	人材・人手不足	経費の増加 設備老朽化等	取引条件悪化	取引先倒産等 顧客需要停滞 後継者不在	—
卸 売 業	人材・人手不足	コロナの影響 取引先倒産等 設備老朽化等	経費増加 顧客需要停滞	—	—
小 売 業	経費の増加 人材・人手不足	コロナの影響 顧客需要停滞	取引条件悪化	取引先倒産等 後継者不在	設備老朽化等
サービス業	経費の増加 顧客需要停滞 人材・人手不足	取引条件悪化 取引先倒産等 設備老朽化等	—	—	—